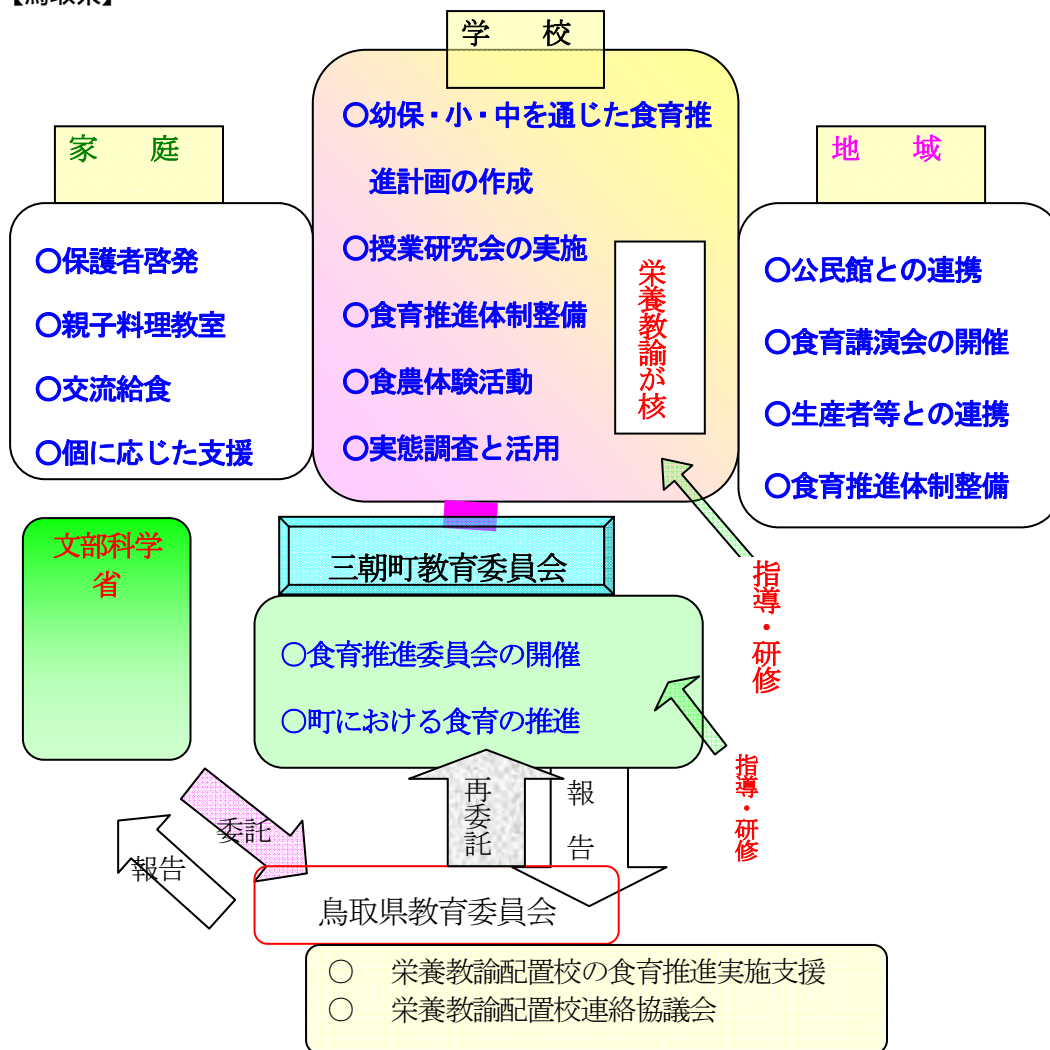


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	鳥取県
再委託先名	三朝町

1. 事業推進の体制

【鳥取県】



2. 具体的取組等について

テーマ1	学校における食に関する指導を充実させるための方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○食に関する指導の全体計画及び年間指導計画の作成や見直しについて支援。 ○栄養教諭と担任、養護教諭等が連携した食育の授業実践及び効果的な指導方法の研究推進を支援。 ○推進地域において、食材や働く人への感謝の気持ちが持てるように、地域人材を指導者とした農業体験活動等の実践を支援。 ○各種研修等で、推進地域での各教科等における食に関する取組の情報の共有を支援。 ○県が作成している指導用資料「食育ハンドブック」の活用の啓発。 ○栄養教諭配置校連絡協議会等において、食に関する指導のあり方等を検討。 ○栄養教諭の資質向上を目指した研修を実施し、学校における食育の推進を支援。

テーマ2

家庭との連携による食に関する指導の充実のための方策

- 家庭への啓発活動。
 - ・校長会で食に関する指導の充実の呼びかけ。
 - ・栄養教諭・学校栄養職員の研修会で、実践例の紹介と呼びかけ。
 - ・食育講演会等において、望ましい食習慣の重要性について啓発。
- 児童生徒の食生活調査の取りまとめを支援。
- 県の広報誌等を通じた食育の情報発信。
- 県が作成している指導用資料「食育ハンドブック」の活用の啓発。
- 食育フォーラム等とおして、学校・家庭・地域の連携による食育推進を啓発。
(県学校栄養士協議会、県学校給食会への委託事業)

テーマ3

地域との連携による食に関する指導の充実のための方策

- 推進地域における、地域の人々や生産者を対象にした給食試食会の実施を支援。
- 推進地域が、公民館活動と連携した料理教室等を開催するなど、地域全体での食育推進を支援。
- 県の広報誌等を通じた食育に関する情報の発信。
- 推進地域で、体験活動を通じた各地域の産物、郷土の食文化等の理解ができるように支援
- 栄養教諭配置校連絡協議会や栄養教諭研修において、地域との連携のあり方について情報の共有を支援。
- 食育フォーラムとおして、学校・家庭・地域の連携による食育推進のあり方についての啓発活動。
- 学校給食の県内産食材の活用を推進することによる食に関する指導の支援。

数字で変化のあった事項について

〈食に関する指導年間計画の作成率〉

	平成21年度	平成22年度
小学校	64%	73%
中学校	37%	44%
特別支援学校	29%	44%

〈県内産食材使用率の推移〉 米、麦、牛乳を除く主な食材44品目

平成21年度	57%	平成22年度	63% (2学期現在)
--------	-----	--------	-------------

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

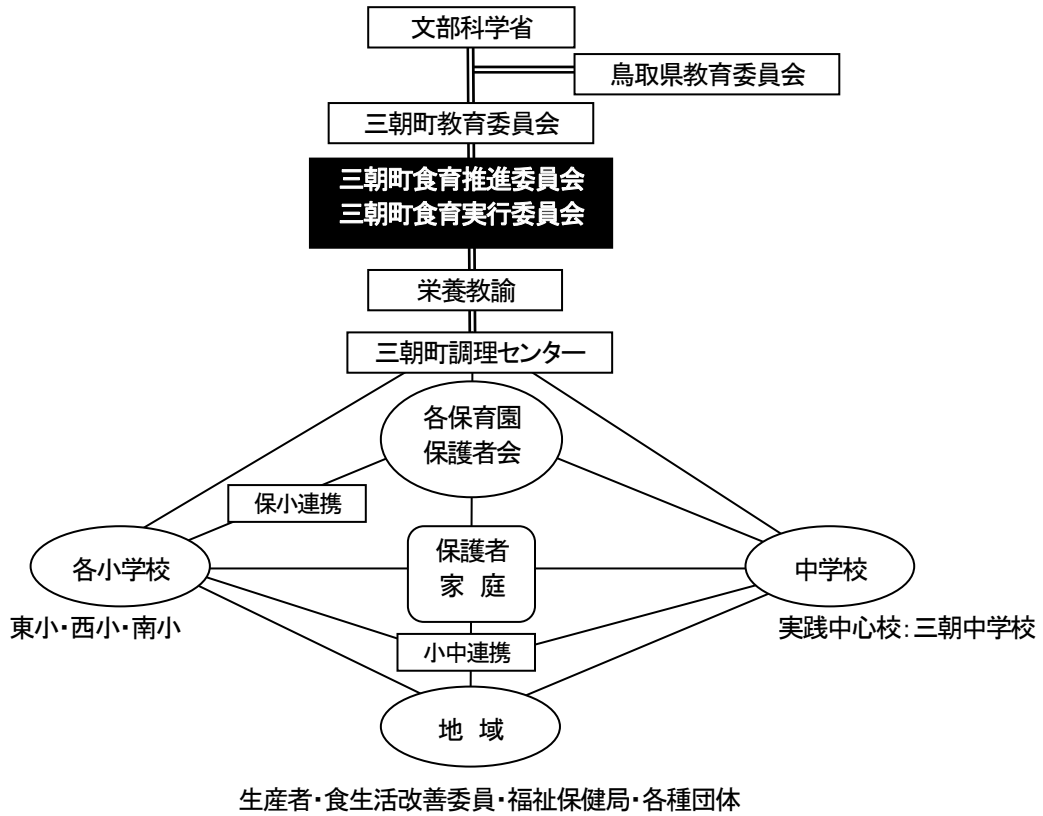
【連絡協議会及び栄養教諭研修】

- 栄養教諭が情報交換することで、食に関する指導の共通理解が進み、お互いの実践が改善されつつある。
- 教科等について専門的に研修することにより、栄養教諭の食に関する指導への理解を深めることができた。
- 校内における食育の推進体制が整備され、指導計画の見直しがされている。
- 学校給食の県内産食材の活用を積極的に呼びかけることにより、安全・安心な食の提供に努め、郷土を大切にし、感謝の心を育むことをねらいとした食育を推進することができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 学校における食育の推進は、幼児児童生徒の実態把握を行い、縦の系統性を大切にして、関係機関が連携しながら進めていくことが必要。
- 学校内における食育推進体制を更に充実し、学校給食を生きた教材として活用した指導を、ベースとすることの再確認が必要。
- 保護者の意識や関心に、二極化の傾向が見られる。また、食育の重要性は理解していても、日々の実践が難しい。学校と家庭が今後も連携しながら、継続して食育に取り組んでいくことが重要である。
- 栄養教諭の職務内容については、文部科学省が提示している職務内容をもとに、効率的な業務の遂行について、引き続き検討を進めていく必要がある。
- 学校における食育推進のためには、その中核となる栄養教諭の専門的な資質向上や指導力を高めるために、研修等の充実を図り、引き続き支援していくことが重要である。

【三朝町】



2. 具体的取組等について

テーマ1 各教科等における食に関する指導の充実のための取組

○担任または教科担任と栄養教諭とのチームティーチングによる授業実践

- ・小・中学校で家庭科、学活を中心にチームティーチングを実施。

○給食時における効果的な食育訪問指導の研究

- ・給食を生きた教材として活用。事後指導として指導内容をプリントにまとめ、家庭へ配布。



家庭科におけるチームティーチング

○各教科、領域、特別活動等における効果的な指導方法の研究

- ・中学校家庭科と連携し、学校給食献立を作成。給食で実施後、生徒会専門委員会と連携し投票を行った。



○生徒会給食委員会による主体的な食育の推進活動の研究

- ・給食を教材として、校内における食育を推進。
- ・全校集会や文化祭等における啓発活動。
- ・朝食強化週間「バッチリズム推進週間」の実施。



○食に関するアンケートや体カテスト、マラソン大会などと連携した個人ファイルの作成

- ・食に関するアンケートを定期的実施。(4月・9月・12月)
- ・「バッチリズム推進週間」とマラソン大会とを連携させ、生活習慣と体力との関連を検証。

○担任、養護教諭、栄養教諭による個別指導の実施(面談)

- ・食物アレルギーをもつ児童生徒への個別指導。
- ・偏食のある生徒への個別指導。個別日誌を作成し継続的に指導。

野球部での個別指導



○運動をする生徒へ個別指導の実施

- ・中学生の運動部を中心に個別指導を実施。部日誌で継続的に指導。

- 各小中学校「食に関する指導の学年別年間指導計画」の作成
- 「食育黑板」や「給食放送」「食育だより」等児童生徒への啓発活動の研究

- ・「食育黑板」に当日の使用食材の实物展示や生産者さんの写真、搬入時でのつぶやきなどを掲示し、生徒の興味関心を惹く工夫を実践。
- ・「食育黑板」の教材を中学校生徒会給食委員会と作成し、効果的に啓発。

お弁当の日



1年生
「おにぎり弁当」

- 「お弁当の日」や「バイキング給食」等自己管理能力を養うための取組の充実

- ・家庭科や朝の会等の時間における事前指導を実施。
- ・お弁当の日では作成計画書を作成。家庭との連携方法を工夫。

- 毎月15日の「ノーテレビデー」や19日の「食育の日」における生徒会専門委員会による食育の推進活動の展開

- ・生徒会保健委員会活動と連携し、「ノーテレビデー」にあわせた朝食アンケートを実施。(※10回実施)
- ・「食育の日」における生徒会給食委員会による食育の推進
生徒が毎月の食育目標にあわせた啓発内容を作成し、全校へ啓発。

バイキング給食



「食育の日」における委員会活動

啓発資料作成



給食時間



朝の会



食育黑板

テーマ2

学校と家庭との連携による食に関する指導充実のための取組
家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査研究

- 「さんきゅう通信」「ホームページ」による家庭への情報提供及び啓発方法の研究

- ・中学校のホームページに食育コーナーを設け、給食献立や食に関する推進活動の様子を掲載。(※アクセス数2月末現在：15万2千件超)

- 参観日と連携した給食試食会及び栄養教諭による食育講話の実施

- 夏休み前の小地域懇談会での保護者への啓発 (※全家庭数6割が参加)

- ・中学校区内各3小学校区で実施。夏休みの食生活や朝食の効果を啓発。

- 食物アレルギーをもつ児童生徒の保護者への個別相談指導

- 個人懇談、学校行事での栄養教諭による個別相談「食育おでかけ相談隊」の実施

- ・小学校での就学時健診での栄養教諭による食育講話の実施。
- ・中学校での個人懇談に合わせた資料提供。

- 食の専門家を招いての食育講演会の開催

- ・東海大学体育学部小澤治夫教授による食育講演会を児童生徒、保護者対象に開催
第1部：町内小学校5・6年生、中学生対象 (※303名)

テーマ「早寝、早起き、朝ごはん、テレビを止めて外遊び」

(※参加者評価 4.5 (5段階評価))

- 第2部：保護者対象 (※参加者：219名)

テーマ「子どもを一人前に育てる大人の責任～学力・体力・気力の向上は生活習慣の立て直しから～」

(※参加者評価4.7 (5段階評価))

- 親子料理教室の開催

- ・中学校の親子対象に「手早く栄養満点・朝食メニュー」をテーマに調理実習

親子食育教室



小地域懇談会



食育講演会

を実施。その後栄養教諭による講話を行った。(※参加者：34名)
 (※メニュー：レタス入りスープ炒飯・ごはんピザ・朝のフレッシュトースト
 ほうれん草オムレツ・サラダうどん・簡単！フレンチトースト)

○食育推進パンフレットの配布

- ・町内の各園・学校での食育の取り組み内容をまとめたパンフレットを各家庭に配布。

テーマ3 学校と地域との連携による食に関する指導の充実のための取組

○三朝町教育研究会健康教育部会と連携した食育の推進の研究

- ・本年度研究主題「規則正しい生活習慣の確立をめざし、健康でたくましい子どもの育成を図る。」
 (健康教育部会部員：各保育園調理員、各小中学校保体主事、養護教諭・町栄養士・栄養教諭)

○地域の人材をゲストティーチャーとして活用した授業研究

○食生活推進委員と連携した食育の推進

(「みささワクワク宿泊体験塾」「朝食料理教室」家庭科学習等)

○児童生徒と生産者グループの交流を図る取組(給食放送・交流給食・給食集会)

○地域住民の給食への理解を図る試食会「地域おでかけ給食」の開催

- ・中学校の学校公開と連携し、地域住民対象に試食会を実施。
 (※参加者：10月/20名 1月/20名)
 栄養教諭による食育講話の後、生徒会給食委員会による実践発表の実施。
- ・地域ボランティアと連携し、地域高齢者対象に試食会を実施。
 (※7月：「いきいきサロン」参加者26名)

○「三朝町かがやく子どもフェスティバル」と連携した食育ブースの開催

- ・みささ土曜楽校の取組の発表の場である「三朝町かがやく子どもフェスティバル」と連携し食育ブースを開催。
- ・中学校における取組を生徒会給食委員会と保健委員会が連携し発表。
- ・中学生ボランティアを中心に体験コーナーを設置。

○児童生徒の作品や食育の取組を掲示し地域住民への啓発を図る「給食展」の開催

○地域住民へ食育を啓発するための取組

(町報「ぱくぱくオイシーナちゃんの食育講座」毎月19日防災無線「さんきゅう通信」の配布)

○地産地消の更なる推進の充実

- ・食育月間である6月に「三朝町食育推進週間」を設け、地域の特産物を使用した給食を実施。農産物のみならず、三朝神倉豆腐、とち餅、豆腐の燻製などの特産物を使った献立を展開。



地域おでかけ給食

給食委員会発表



食育講話



子どもフェスティバル

実践発表



地産地消献立



豆むきボランティア



食育展



高勢いきいきサロン

テーマ1～3に共通する具体的計画

- 学校給食を活用した食育の推進
 - ・給食試食会の実施（対象：保護者・地域住民）
 - ・食育だよりの配布（対象：学校・家庭・地域）
- 三朝町食育推進計画に基づいた食育の推進
 - ・食育月目標に従って啓発活動を実施（給食・給食だより・掲示資料・町報掲載記事など）
- 食育推進委員会の開催（年2回）
- 先進地視察
 - ・西尾市立寺津小学校（11月12日）
- 三朝町の教育ビジョンに位置付けた**総合的な食育の推進**
 - ・三朝町学年別食に関する指導目標
 - ・三朝町の学校重点施策
 - ・三朝町教育研究会健康教育部会



数字で変化のあった事項について

※三朝中学校全校生徒対象

(単位:人)

● 朝食摂取頻度の変化（食に関するアンケートより）

【4月】	全校			1年生		2年生		3年生	
	合計	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
毎日食べる	128	68	60	23	26	15	21	30	13
週4～5日食べる	19	10	9	6	1	1	1	3	7
週2～3日食べる	3	3	0	0	0	1	0	2	0
食べない	2	0	0	1	0	0	0	0	1
わからない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
朝食摂取率(%)	84.2			86.0		92.3		76.8	

※4月との比較 →

【9月】	全校			1年生		2年生		3年生	
	合計	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
毎日食べる	131	73	58	23	24	18	18	32	16
週4～5日食べる	17	10	7	5	1	1	2	4	4
週2～3日食べる	2	1	1	0	0	1	0	0	1
食べない	2	1	1	1	0	0	0	0	1
わからない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
朝食摂取率(%)	86.2			87.0		90.0		82.8	

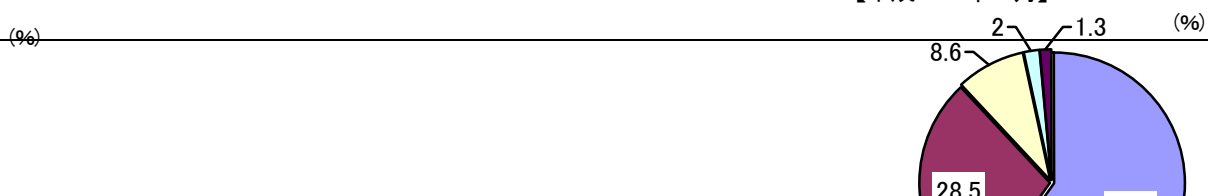
※4月との比較 → 9月との比較 →

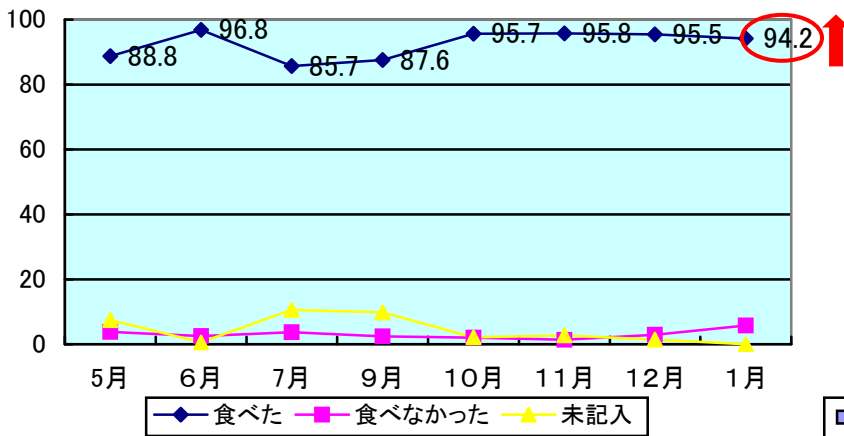
【12月】	全校			1年生		2年生		3年生	
	合計	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
毎日食べる	128	73	55	26	24	18	20	30	11
週4～5日食べる	13	6	7	0	1	1	1	5	6
週2～3日食べる	7	4	3	3	2	1	1	0	0
食べない	2	2	0	1	0	0	0	1	0
わからない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
朝食摂取率(%)	85.3			87.7		90.5		81.1	

● 休日の朝食状況（食に関するアンケートより）

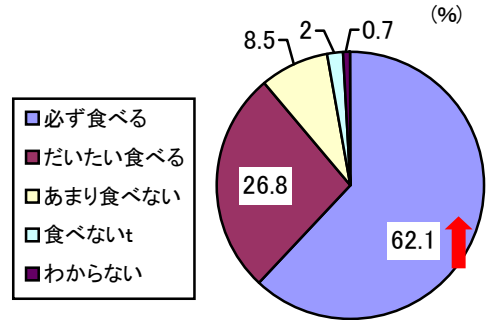
● 月別朝食摂取率の変化（ノーテレビーデー調査より）

【平成22年4月】

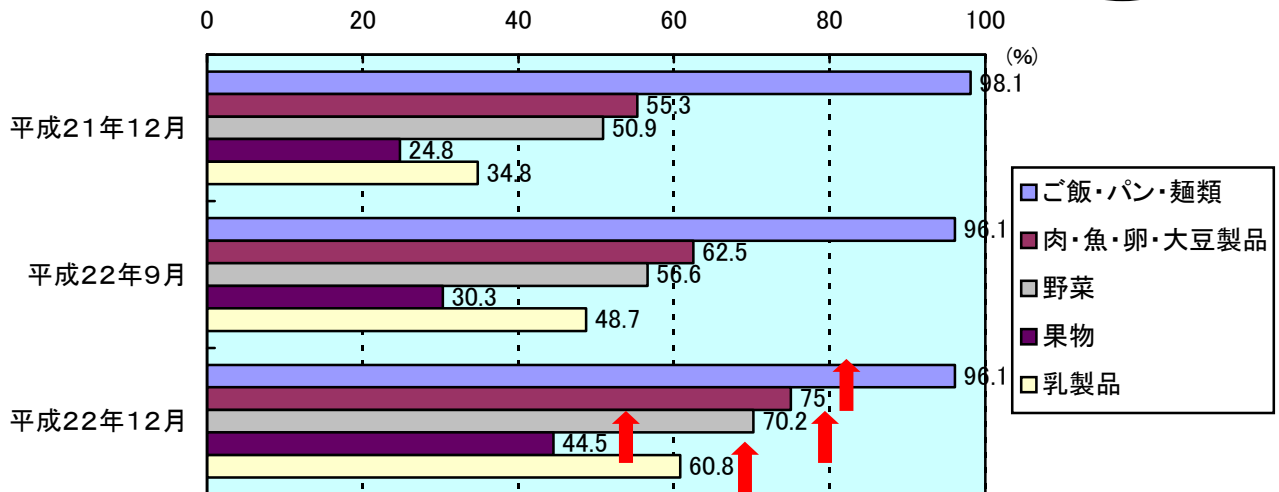




【平成22年12月】



● 朝食の内容の変化 (食に関するアンケートより)



● 地場産物活用率の変化 (2学期実績)

(学校給食用食材の生産地別使用状況調査/鳥取県教育委員会スポーツ健康教育課指定44品目)

	県内産	(内) 地元産
平成21年度	81%	43%
平成22年度	90.5%	28.5%

● 給食残食の変化

	町内小学校	中学校
平成22年4月	3%	0%
平成22年2月	0%	0%

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

○ 生徒による主体的な食育の推進活動

・「食育の日」における全校生徒への啓発活動などの恒常的な活動や、「バッチリズム推進週間」などの食に関する様々な取組を **生徒会、給食委員会の活動** として取り組んだ。生徒主体の活動とすることにより学校全体で取り組むことで、教職員や他生徒に興味関心を持たせる効果があった。

○ 運動をする生徒への個別指導

・野球部を中心に運動をする生徒へ継続的に食事指導を行った。生徒の心理段階に合わせて具体的な指導を継続的に実施したため、**生徒の関心が非常に高まり、実践力につながった。**

○偏食がある生徒への個別指導

・偏食がある生徒への食事指導を行った。3食の食事内容や健康状態を記録する**個人日誌**を作成し、それに対して継続的に指導を行った。結果、生徒は朝食を食べるようになり食事内容も改善された。また、当初は感想欄に否定的な意見が多かったが、前向きなコメントが書かれるようになった。学校生活も落ち着きつつある。

○保護者への啓発活動

・昨年に引き続き、夏休みに各地区で行われる**小地域懇談会**に栄養教諭による食育講話を実施し、**家庭数の6割の保護者へ啓発活動**を行った。また、中学校の**ホームページ**を活用し、食育推進の取組を載せることで、タイムリーな情報を保護者に啓発した。

○食育講演会

・同日に、児童生徒対象と保護者対象の2回講演会を設定することで、**同じ情報を同じ時期に共有**することで家庭への効果的な啓発を行うことができた。

○親子料理教室

・例年は平日開催だったのだが今年度は**土曜日**に設定した。午前と午後の部活の生徒や、また休日だったため保護者の参加も増やすことができた。実施後の**参加者評価は5（5段階評価）**感想も食に前向きなものが多く、取組みの参画方法の工夫次第で実施内容は同じでも、より効果の高い取組みとできる良い例となった。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

○配慮を要する生徒への指導

・今年度3回実施した「食に関するアンケート」の結果、朝食を食べている生徒がほとんどであるが、その割合は1年間ほとんど変化がなく、朝食を食べない生徒が固定化していると考えられる。また、生活習慣に対しての質問でも同じ傾向がみられ、生活に課題のある生徒が固定化している。今後さらに担任や養護教諭と連携方法の工夫や、その生徒への個別指導の充実を図る必要がある。

○調査結果の活用方法の研究

・年に3回の「食に関するアンケート」だけでなく他の調査と連携して実態把握や取組みの効果の検証を継続的に行ったが、調査結果を活動に十分に生かすことができなかった。今後、食育だけでなく他の学校生活に活用できるような効果的な調査方法の研究を進める。

○小学校における食育の推進体制の整備

・実践中心校である中学校では成果が出ているが、小学校での推進が様々である。来年度は新学習指導要領に合わせた「学年別指導計画」を作成し、町内3小学校の実態に応じた食育の推進の定着を図る。

○取組みの見直しと精査

・学校・家庭・地域の中でそれぞれの特性に合わせた取組みを実施してきたが、アンケートなどで検証した結果、なかには効果が低いものもあった。参画方法の工夫によって今まで以上の効果を上げることができた食育講演会や親子料理教室を参考に他の取組みを見直し、より成果が上がるよう工夫する。

○学校教育における食育の位置づけの確立

・地域、家庭、保護者に向けての発信を続けると共に、生徒自身の意識を高め、生徒自身が将来の自分の食生活に生かせる力をつけさせたい。そのためにも、食育を学校教育の中に位置づけ、生徒の主体性を生かした活動とすべきである。具体的には次の点について今後取組みを進めたい。

- ① 家庭科以外の各教科の指導内容と食育の観点で関連づけられるものを整理する。
- ② 道徳・学活でアンケート結果を基に食育とのかかわりを意識した指導をする。
- ③ 給食委員会活動を更に生徒の主体性を生かした取り組みとして充実させる。
- ④ 部活動単位での食にかかわる指導を広げる。個別指導を充実させる。
- ⑤ 家庭、地域への情報発信の在り方を研究する。